

千倉協事務局からのお知らせ

(279)

TEL : 043-307-1581 FAX : 043-307-1582 E-Mail : chibakyo@s8.dion.ne.jp

令和5年11月30日

千葉県倉庫協会事務局

《今月号の記事》

1. 倉庫業務フォローアップ研修を開催しました
2. 倉庫管理主任者フォローアップ研修を開催しました
3. 倉庫管理主任者講習会を開催しました
4. 東葛地区会議の開催について
5. 第53回年末年始無災害運動について
6. 新年賀詞交歓会の開催について
7. 今後の行事予定
8. 自主監査のお願い
9. 令和5年秋季全国火災予防運動
10. 令和5年度第1回品目別部会各部会発表内容について

☆ 研修・セミナーの案内等はeメール・電話等により請求いただければ、再送いたします。

☆ このお知らせは各会員の連絡担当者の方に配布しております。皆様にご覧になれるようご配慮をお願いいたします。

☆ 異動等で連絡担当者変更になる場合及びメールアドレスが変更になる場合には、ご連絡をお願いいたします。

☆ 関倉連5協会とは、茨城、群馬、栃木、山梨と千葉県倉庫協会です。

6協会とは東京倉庫協会を加え、7協会とは神奈川倉庫協会を加えます。

1. 倉庫業務フォローアップ研修の開催

倉庫業務フォローアップ研修は、関東倉庫連合会4協会共同開催について、9月29日、皆様にご案内しました。

日 時 11月7日(火) 13時~17時
場 所 倉庫会館 3階会議室 東京都江東区永代1-13-3
参加者 25名
研修内容 倉庫業務基礎研修修了者を対象とし、実務上の留意点を中心としたフォローアップ研修で、前半に倉庫における日常業務の中で留意すべきことを受託・入庫・保管・出庫の業務ごとに説明、後半に事故事例とその防止策を学んでいただく研修です。
千葉からの参加者0名

2. 倉庫管理主任者フォローアップ研修の開催

倉庫管理主任者フォローアップ研修は、関東倉庫連合会4協会共同開催について、9月22日、皆様にご案内しました。

日 時 11月8日(火) 13時~17時
場 所 倉庫会館 3階会議室 東京都江東区永代1-13-3
参加者 25名
研修内容 この研修は、日々倉庫業務に携わっている倉庫管理主任者の実務能力のレベルアッ

ブを図り、事故防止の徹底による倉庫管理品質の向上を期すことを目的とした研修
です。
千葉からの参加者2名

3. 倉庫管理主任者講習会の開催

倉庫管理主任者講習会は、関東倉庫協会連合会の南関東ブロック5協会共同開催について、
7月4日、皆様にご案内しました。

日 時	令和5年8月29日(火)	12時00分～17時00分
場 所	全日通霞が関ビル 8階	東京都千代田区霞が関3-3-3
受講費用	1名につき 8,000円	(資料代・会場費含む)
受講者	30名	

4. 東葛地区会議の開催

日 時	11月17日(金)	15:15～19:00
場 所	合同酒精株式会社 東京工場	クラムスタジオ RA ルーム
参加社	9社	23名
議 題	①会員各社近況報告②東葛地区会計報告及び監査結果③合同酒精(株)東京工場ライン見学	

東葛地区でも5年ぶりの開催となります。
他地区協会も合わせて可能な限り開催をお願い致します。

5. 第53回年末年始無災害運動について

12月1日から1月15日まで第53回年末年始無災害運動が実施されます。
今年のスローガンは【健康と安全で幸せつなく年末年始】

6. 令和6年賀詞交歓会の開催について

千葉県倉庫協会では令和6年1月25日にホテルグリーンタワー幕張にて16時より千葉食
糧保管協会と共催にて賀詞交歓会を開催いたします。皆様のご参加お待ちしております。
お申込みの締め切りは12月4日となります。

7. 今後の行動予定

12月6日(水) 千葉食糧保管協会第2回理事会開催 14時30～
第3回総務委員会開催 15時20分～
第220回理事会開催 16時30分～
12月6・7日(水) 倉庫業務改善管理者研修
令和6年
1月25日(木) 千葉県倉庫協会・千葉食糧保管協会合同賀詞交歓会
1月26日(金) 倉庫法令実務専門研修
2月14日(水) プロジェクトマネジメント研修
2月22日(木) 安全講習会

8. 倉庫業の自主監査のお願い：11月・12月は自主監査月間です

10月31日付け倉庫管理指導委員長 森田洋一委員長からの文書により、11月から12月の2カ月間を自主監査の実施期間とし、会員の皆様方に監査計画と監査票等を送付しております。

今年も倉庫管理主任者は、監査票により自主監査を行い、「自主監査結果の概要報告書」に取りまとめていただき、令和6年1月末日までに、協会事務局まで報告をお願いいたします。

この制度は、平成14年に倉庫業法の事業許可制が登録制に規制緩和されたことに伴い、規制緩和の代償として、自己責任での事故防止を目的として、日倉協が音頭を取り、国土交通省の指導を受けながら実施することとしたものです。

倉庫(業)の不具合は、改めて点検して見ないと分からないものもありますので、この機会に自主点検を行い、不具合が発見された場合には、早急に改善するなど事故防止に努めるようお願いいたします。

結果概要報告書を提出いただいた会員の方には、報告書の(2)に記載された営業所数分について、「倉庫監査実施済証」(日本倉庫協会発行)を送付いたします。

～結果概要報告書を令和6年1月末日までに、事務局に報告下さい～

9. 令和5年秋季全国火災予防運動

実施期間令和5年11月9日(木)～11月15日(水)までの7日間で実施されました。

防火標語「火を消して 不安を消して つなぐ未来」

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図り、災害の発生を防止し、高齢者を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的としています。

10. 令和5年度第1回品目別部会 各部会発表内容について

穀肥・食料品部会報告書

本日の穀肥・食料品部会は、11社14名が参加されました。

1 米穀関係

(1) 令和5年6月末現在の在庫状況等

ア 米 25,825トン（前年同期 30,992トン、▲5,167トン減少、83.3%）

イ 令和5年4月～6月の3ヶ月平均

- ① 入庫動向 7,263トン 前年同期 3,931トン +3,332トン増加
- ② 出庫動向 8,175トン 前年同期 6,100トン +2,075トン増加
- ③ 残高動向 26,235トン 前年同期 33,077トン ▲6,842トン減少

(2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

- ・ 平成22年10月から、政府所有米穀の販売等業務が民間委託となり、保管経費の計算方式が、期末残高方式に改悪されました。倉庫協会等を通じて継続的に要請する中で、令和5年度契約から、前期からの繰越数量と当期の入庫数量の合計数量に単価を乗じる積数計算方式との選択ができることになりました。
- ・ 低温倉庫は、13℃で稼働しています。昨年からの電力料金の高騰に対する料金改定を荷主にお願ひし概ねご理解をいただきました。
- ・ 5年千葉県産米の入庫が進まないため、新潟等の県外産を搬入し対応している。

イ 課題

- ・ 積数計算方式を選択すると期末残高方式の単価から4円/トン減額されますので今後減額されないよう改正を求めたい。
- ・ 冷房設備等の更新は、資材が高騰し計画どおりに進んでいない。

2 麦関係

(1) 令和5年6月末現在の在庫状況等

ア 麦 184,303トン（前年同期 197,645トン、▲13,342トン増加、93.2%）

イ 令和5年4月～6月の3ヶ月平均

- ① 入庫動向 74,831トン、前年同期 79,888トン ▲5,057トン減少
- ② 出庫動向 85,214トン、前年同期 83,953トン +1,261トン増加
- ③ 残高動向 193,655トン、前年同期 190,997トン +2,658トン増加

(2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

- ・小麦の入庫がコロナ前に戻っていない。
- ・人材不足で苦慮している。
- ・棧橋使用料を値上げした。
- ・検疫くん蒸料金が薬品代と作業代金（4倍）の値上げとなる。

イ 課題

- ・海に隣接しているため、塩害による劣化及び設備の老朽化のため設備の更新を計画していますが、資材高騰で進まない。

3 飲料関係

(1) 令和5年6月末現在の在庫状況等

ア 飲料 60,850 トン（前年同期 56,351 トン、4,499 トン増加、108.0%）

イ 令和5年4月～6月の3ヶ月平均

- ① 入庫動向 109,652 トン、前年同期 99,130 トン +10,521 トン増加
- ② 出庫動向 108,175 トン、前年同期 97,368 トン +10,807 トン増加
- ③ 残高動向 59,910 トン、前年同期 55,757 トン +4,153 トン増加

(2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

- ・酒は販売が不調で在庫が膨れている。缶チュウハイの比率が高まっている。
- ・予約受付システムを導入してトラックの時間短縮を図っている。
- ・PBは好調であるが家飲みが増えてコロナ前に戻っていない。

イ 課題

- ・2026年の酒税改定でビールと発泡酒が同一税率となり、チュウハイも上がる。取扱量の変動が課題です。

原材料部会報告

全体会議での原材料部会報告内容を下記のとおり報告いたします

原材料部会は15店社となっております。本日は7店社10名で原材料部会を開催いたしました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染法上の分類が2類相当から5類相当へ引き下げられ、経済の活性化により貨物の動きが良くなることを期待していましたが、各社とも2023年上期は非常に厳しい状況であったとの事です。

各品目の状況については以下のとおり報告いたします。

最初に木材について、報告いたします。

2023年上期は、2022年度から入庫減が今期も続いている状況です。今期は円安と現地の原木不足

が重なり、更なる入荷減となっている状況です。
今後も、円安の影響で入荷量は低い水準で推移すると見込みです。

次に鉄鋼について、報告いたします。

昨年より入荷量減は今期も続いている状況です。特に鉄鋼建材の取扱いは、出荷が滞っている影響で倉庫は満庫状態であり、入荷不能の状況となっています。

引き続き、出荷は低調であり倉庫は満庫状態が続くと見込まれる為、今後も入荷は低い水準で推移すると予想されます。

次に非金属鉱物について、報告いたします。

一部の製品が円安の影響で海外製品より国内製品が安価となる現象が起きています。製品利用先が国内製品に切り替えられ、国内工場から直接納品先へ輸送されることにより倉庫を介さず倉庫側の入荷減となっている状況です。

今後も、円安が続くと予想され入荷は低い水準で推移すると予想されます。

上記のとおり、今後も各製品は入荷減が続くと予想されており、厳しい状況が続くと見込まれていますが、一方で2024年問題を見据え、陸上輸送から海上輸送へシフトする動き、カーボンニュートラルを目指すべく、原材料の変更（石炭に代わる原材料）に伴う、入荷増加が期待される等、明るい材料の報告がありました。

以上、原材料部会の報告といたします。

機器製品部会及びトランクルーム連絡会 報告

本日は4社4名の出席をもちまして意見交換を行ってまいりました。

当部会加盟企業の取扱いとしましては金属製品、電気機械、その他機械、繊維系製品、雑品、トランクルーム及び文章保存という事になります。第2四半期の前年比較の動向としては全般的に横這いから若干の上向き傾向にはありますが、金属製品、織物製品、雑品類の取扱いは減少傾向にあると言えます。

トランクルームの動向につきましては、本日トランクルーム事業者様の出席がありませんでしたので具体的なお話を聞く事は出来ませんでした。生活様式の変化に伴い各社趣向を凝らしたサービスを展開し市場の拡大を目指しております。一方企業・法人顧客の取扱いとしてはコロナ禍を経て転居を伴う転勤が減っている事と、ウクライナ情勢に代表される海外の情勢不安や、中国からの相次ぐ日本企業撤退などがトランクルーム市場にどのような影響を及ぼすのかを注視するところであります。

簡単では御座いますが、機器製品部会及びトランクルーム連絡会からの報告となります。

令和5年度 第一回 品目別部会 化学部会 議事録

開催日時：令和 5年 10月 23日(月) 14:00～15:00

場所：ホテル グリーントワー幕張

参加者： 山九(株) 大坪 孝全 京葉臨海鉄道(株) 斉藤 正美 三和倉庫(株) 春山 隆行
京葉ロジコ(株) 鶴野 悠平 日本ロジテム(株) 高橋 秀樹 千葉港運倉庫(株) 北村 栄一
センコー(株) 朝倉 正雄 センコー(株) 中山 大輔 丸全京葉物流(株) 石井直也
前田運輸倉庫(株) 前田 貴昭 全 9社 11名 (敬称略)

議事進行 記録者：副部会長 山九(株) 大坪 孝全

1. 各店社の倉庫状況(総括)

① 石化樹脂

- * 大半の倉庫の主要貨物となっている。
- * 以前より在庫が多かったが、昨年2月の、ロシアによるウクライナ侵攻以降、更に在庫が積みあがっている状況。
- * 本年度に入り、主要な納入先である自動車産業が回復基調にあり、若干、在庫が少なくなっているが、家電、食品トレイ、包装材、コンビニの弁当箱等のメーカーへの出庫が減少している。これは、エネルギー価格、原材料価格の高騰に伴うインフレによる消費低迷によるものと思われ、今後も継続すると思われる。
- * 例年であれば、円安進行に伴い、輸出が増加し在庫が減少するが、今回はその傾向が全く見られず、輸出による貨物回転率の向上は、見込めない。
- * 上記の状況から、一部の石化メーカーでは生産調整(減産)を行っている。
- * 今般、中東で発生した地政学的問題が、どの様方向へ向かうのか、先が見通せず、今後も予断を許さない状況が継続すると思われる。
- * 我々、倉庫業者には、今後も庫複の確保が大きな課題となる。

② 農薬・肥料

- * 農薬・肥料は、製品の効能がとても向上しており、少量で広い面積をまかなうことが可能となっている。その為、多品種少量化が顕著であり、保管効率が悪くなっている。効率的な保管方法の確立が、課題となっている。
- * 農薬・肥料も原料を輸入に依存している為、価格が高騰している。その為、政府が農業団体に助成金を出おり、今まで通りの消費が続いている。助成金が途絶えたら、消費が大きく低迷すると思われる。農業は日本における主要産業であることから、助成金は長期に亘り継続すると思われるが、倉庫業者としては、助成金が途絶えた場合に備え、代替貨物を探す必要がある。

③ 建築資材

- * 建築資材も価格の高騰による消費の低迷と、建築作業員の人員不足による計画の遅れから在庫が高止まりしている。
- * 建設業界では、万博のパビリオン建設が計画通り進まず、大きな問題となっているように、人員不足を、建設業界が解決しないと進展が見られない。
今後も、在庫の高止まりが懸念される。

3. 要員不足について

- ① 各社とも、フォーク・オペ不足の状況にあり、フォーク・オペの確保が大きな課題となっている。
- ② 派遣での対応を行っているが、定着せず、短期間で辞めてしまうことが多い。
- ③ DXを駆使した、作業の効率化が求められている。
- ④ フォーク・オペの採用・育成は、業界の課題として、全社で協力して対応していきたい。

4. その他

- ① トラックの荷台に、運転手が上がる際、安全確保のため手摺の付いた階段を準備することが必須となっている。倉庫、トラックのどちらが準備するのか問題になっている。
倉庫が準備するのが適切と思われるが、トラックにより荷台の高さが異なる為、準備していた階段が使えない場合がある。かと言って、トラックに準備させるのは、階段が大きい為トラックに置いておくスペースが無く、無理がある。
また、購入しようとしても品薄で納入まで時間がかかっている。
倉庫業者、トラック業者、双方が協力して解決する課題となりつつある。

5. 総括

- * 化学品メーカーは、石油高騰、円安の進行、消費者の環境問題への取組によるプラスチックの排除、消費の低迷等により、大きな岐路に立たされている。
今後、需要が見込める半導体材料等へ、軸足を移す可能性が大きい。
そうした場合、我々倉庫業者は、化学品メーカーが求める、新しい保管サービス、管理システムを、新たに構築する必要があるのではないかと、推測される。

以上

千葉県倉庫協会のホームページ

<http://www.soukoweb.jp/chiba/index.htm>

- ① 事務局からのお知らせ
- ② 会員のページ（毎月の残高報告）